

付帯調査（自由意見）

（令和3年12月調査）

景況調査票の自由意見欄に310企業から貴重なご意見をいただきました。ご多用中にもかかわらずご記入をいただき感謝申し上げます。

図表1 最近の状況や関心事

分類項目	回答数※
1. 経済・景気動向	105
2. 業界の動向	70
3. 顧客・得意先	43
4. 為替	16
5. 金融・資金繰り	20
6. 売上・収益	69
7. 物価変動	31
8. 消費税	15
9. 人材の確保・育成	32
10. その他	25

※複数回答

特徴的なご意見を以下に掲載いたします。なお、掲載にあたり若干の加筆・修正を加えています。

1. 経済・景気動向について

- オミクロン株による影響が今後の経済にどう関わってくるか不安である。
(織物製衣服製造業)
- 国内外から調達している部品が遅延又は調達できない状況が続いている。
(産業用機械製造業)
- 電子部品の入手状況が極端に悪化してきた。小さな会社の都度発注では部品が1年近く入手不可となり、出荷できないものもある。年度明け以降非常に忙しい状況となりそうだ。
(電気計測器製造業)

- 感染者の減少により11月は人出があったため、少し回復の兆しがあり年末年始へ期待もあったが、原油高やオミクロン株の出現で希望の光が見えなくなった。
(装身具・身の回り品卸売業)
- 緊急事態宣言が解除されても状況にあまり変化がない。人が動かないことには消費が上向かない。
(菓子・パン類卸売業)
- 円安、原料高、輸入経費増、物流不安定とマイナス要素が目白押しといった状況である。
(文具具・事務用品卸売業)
- ウッドショックが来年2月頃まで続く見込み。
(木材・他建築材料卸売業)
- ワクチン接種が進んで感染者数も減り、イベントやコンサートなども有観客で行われるようになってきて回復してきたことが実感できる。マスクを外せるのはまだ先だとは思いますが、このまま収束してくれることを願う。
(産業用機器賃貸業)

2. 業界の動向について

- 製造業は半導体や部品不足、物流の停滞などあるが、総じて活発に動いている。大手企業が部品などを抱え込まないよう希望する。
(理化学・光学機器製造業)
- 産業用機械についてはあきらかに需要が戻ってきている。搬送用ホース、コンベヤベルトは対応が間に合わないほど忙しい。
(ゴム・プラスチック卸売業)
- マスクの着用が徹底されているため、メイクアップ化粧品の売上が昨年から改善されていない。売上の回復は新型コロナウイルス感染症が終息するまで見込めない。
(化粧品小売業)
- 新型コロナウイルス感染症による海外渡航制限により、多くの旅行会社が売上90%減の状況が約2年に及んでいる。赤字継続で大変厳しい。
(旅行業)

3. 顧客・得意先について

- 顧客の電子部品調達難でラインがストップし、我々への発注が激減。12月中旬より回復予定だが真偽不明である。
(金属素形材製品製造業)
- 感染状況の今後が見通せない状況のため、不安感がありイベントへの参加、消費意欲が低下している。
(パン・菓子製造業)
- 商店街の客足の減少が著しく、閉店する店舗が目立ってきている。
(茶・のり・乾物小売業)
- 在宅勤務により顧客が減少した。
(書籍・雑誌小売業)

- 感染者の減少で落ち着きを取り戻したのか、昼間の客足は新型コロナウイルス感染症発生前までとは言えないが戻ってきたように感じる。しかし夕方にはすでに街自体に人気はなく、飲食店の明かりばかりで客入りも少ない。(一般飲食店)
- 緊急事態宣言が全面解除されてから多少のお客様の戻りはあったが、現状忙しくなるのは土曜日のみで平日は暇な状況が続いている。21時になるとほとんどのお客様が帰ってしまい、それ以降お客様がくることはほぼ無い。(酒場・ビアホール)

4. 為替について

- 急激な円安によって、先行受注した分が原価を割って出荷することになる。(婦人・子供服卸売業)
- 海外から仕入れている材料の値上げが予定されている上に、最近の円安で大幅な値上げをしないといけないことが心配である。(非鉄金属卸売業)
- 中国からの輸入のため円安になると商品価格に影響がでる。(男子服小売業)

5. 金融・資金繰りについて

- 新型コロナウイルス感染症関連の融資の返済が来年から始まるが、現状のままだとその返済が不安である。(がん具・事務用品製造業)
- 全体的に景気が良くないため資金不足となりがちである。売上の減少、工期の遅れ、ウッドショック、半導体不足なども起因していると思う。(家庭用電気機器卸売業)
- 販売促進費が例年よりかかっている。赤字は続いているが売上は維持しているため、資金を借りる際に新型コロナウイルス感染症関連の特別金利にならず、金利負担が非常に重い。(かばん・袋物小売業)
- 資材、原料の不足による生産の遅れから在庫がない状態が続いている。販売機会を逃さないよう仕入台数を増やすことで資金繰りに影響がでる。売上減少のみならず、このような状況への金融支援があってもよいのではないか。(自動車小売業)

6. 売上・収益について

- 原材料高騰により原価が上がるが、下請会社としては単価に反映できず、経営悪化となる。(かばん・袋物製造業)

- 2019年6月に大幅な売上減少が始まり、持続化給付金や雇用調整助成金に支えられ経営を維持している。生き残りを目標として売上低迷の中、新製品を送り出し、新型コロナウイルス感染症の終息に備えている。(装身具・装飾品製造業)
- 特注家具製造のためこの1年半は大きな影響を受けたが、従業員を減らすことなく仕事ができたと感謝をしている。2022年度も建設関係が良いため、仕事が続くそうである。(家具製造業)
- 材料の仕入れ等が10%程度上昇しているがお客様へ値上げ交渉ができていないため利益が出るのか不安である。(製本・印刷物加工製造業)
- 原材料、副資材の価格上昇が著しく、収益を圧迫している。(鉄鋼・非鉄金属製造業)
- 半導体が手に入らず製品が作れない状態が続いているため、注文が入っても売上の目途が立たない。(医療用機器製造業)
- 緊急事態宣言が解除され売上は若干戻ってきたが、2年前にはとても及ばない。(酒類・飲料卸売業)
- 新型コロナウイルス感染症の影響で、経済活動が縮小し、売上等がかなり減少してきている。早く終結させ経済活動を活況に戻さないと経済的に破綻してしまう。(自動車・自動車部品卸売業)
- 売上が前年に比べてやや戻ってきた感じがする。2年前と比較すると新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、オミクロン株、第6波の発生といわれているため景気の戻りが非常に悪いことが予想される。(靴・履物小売業)
- 昨年同様今年も悪い。来店も少なく緊急事態宣言が解除された後も盛り上がりがない。2019年の状況まで戻るか不安である。(かばん・袋物小売業)

7. 物価変動について

- 原油価格高騰、円安に起因する原材料価格の上昇、物流コスト上昇の不安がある。(織物製衣服製造業)
- 電機関係のほとんどの仕入材料が値上げしている。また納期未定が多く非常に困っている。(電子部品・デバイス製造業)
- 物の値段が上昇している。小売業は問屋より値上げを言われるたびにびくびくしている。(雑貨・身の回り品小売業)
- 人件費が上がるのに価格は同じ。共倒れになる恐れがある。(その他専門サービス業)

- 原材料費の値上げが著しい。コロナ禍で経営が厳しい中、値上げは難しい。
(普通洗濯業)

8. 消費税について

- 新型コロナウイルス感染症流行下での10%は重い。(情報提供サービス業)
- インボイス制度はどうすればいいのか関心がある。(一般飲食店)

9. 人材の確保・育成について

- 中小企業においては自前での社員教育スキル向上策は現実的ではない。業界や他の教育機関の集合研修の場を活用する方法を計画的に取り入れたい。
(室内装飾品卸売業)
- 人材の確保が難しい。特に新卒者や物流現場などのパート人材等。
(建設・他一般機器卸売業)
- また人材不足の時代になりそう。今のうちに人材を確保して少しでも事業の拡大につなげたいと思う。
(ソフトウェア業)
- 新型コロナウイルス感染症発生前と現在とでは働き方や目指しているところなど求人に応募してくる方の考え方が変わってきたと感じる。これまで通りの求人内容や社内体制では人材を確保していくのは難しい。変わっていく必要がある。
(駐車場業)

10. その他

- 世界全体に変化、変動があり世の中が一変したように感じる。日本のこれからの動きが気になる。
(ニット製衣服製造業)
- 今は落ち着いているがオミクロン株も発生している。新型コロナウイルス感染症発生前の状況に完全に戻ることはないという意識を持って商売を続け、変化に対応していきたいと思う。
(家具・建具卸売業)
- 新型コロナウイルス感染症により中国の取引先へ訪問できないため、品質や納期のコントロールができず困っている。
(その他電気機器卸売業)
- 東京五輪を海外取引先と直接出会う機会とみていたが、それが叶わず残念であった。
(スポーツ用品小売業)